

群 教 セ	G02 - 03
	令 2.275 集
	社会一中

歴史的な事象やその原因を多面的、多角的に 考察できる生徒の育成

— 追究する視点の明確化と思考ツールの活用を通して —

特別研修員 川島 久幸

I 研究テーマ設定の理由

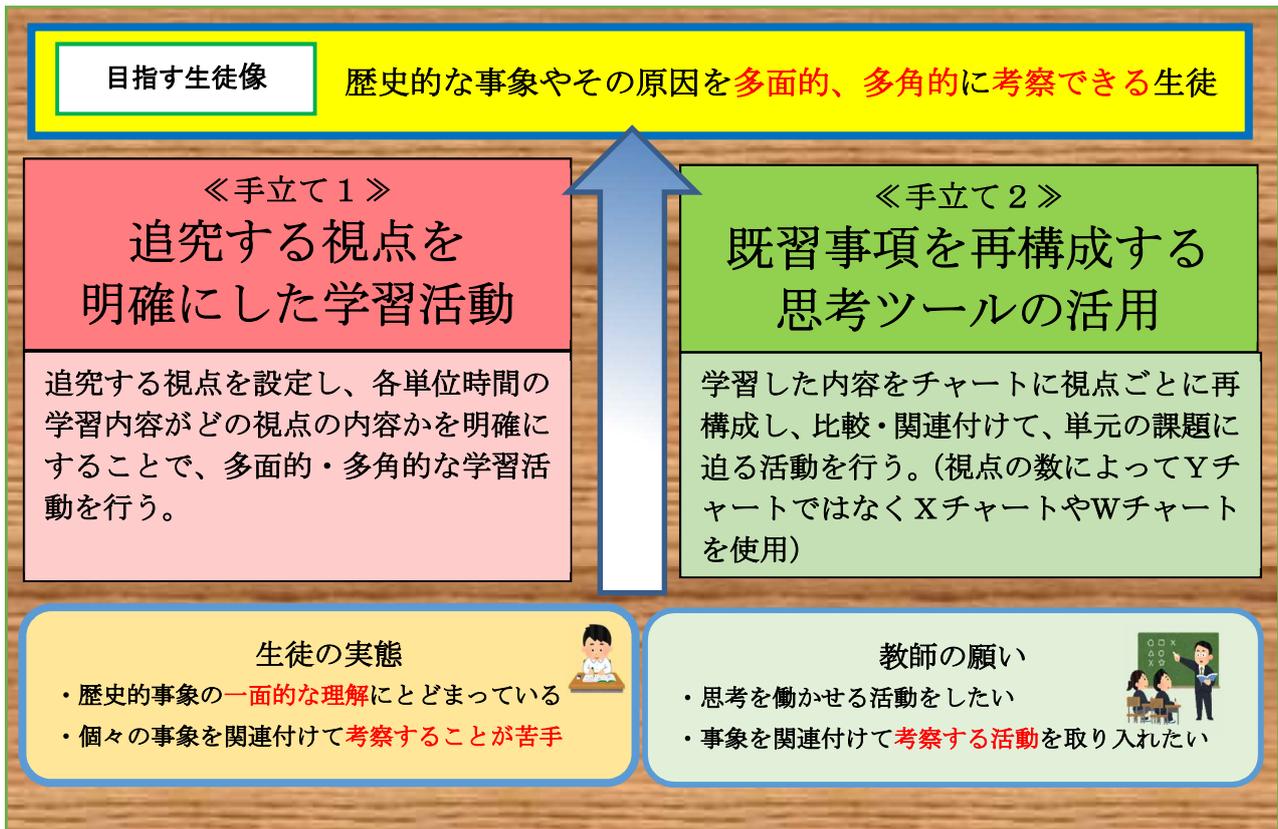
中学校学習指導要領社会（平成 29 年告示）では、歴史分野の目標として「歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う」とある。歴史学習においては、見方・考え方を基に考察し、自分の考えを論理的に説明したり、議論したりする力の育成が求められている。

本校の生徒は歴史学習において、「いつ起こったのか」「なぜ起こったのか」という点については、理解している生徒が多いものの、前の時代との歴史的な事象のつながりや個々の歴史的な事象の関連などについて説明できる生徒は少ない。また、自分自身の課題として、生徒が歴史的な事象について、思考を働かせるような活動を設定できておらず、授業が歴史的な事実の詰め込みになっている点が問題であると思う。

そこで、追究する視点を明確化し、その視点を基に多面的・多角的に考察するために思考ツールを活用した活動を取り入れることにより、生徒の思考が深まると考え、上記の通りテーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

歴史的事象を多面的・多角的に考察するために、次のような手立ての実践を試みた。

手立て1 追究する視点を明確にした学習活動

手立て2 既習事項を再構成する思考ツールの活用

手立て1では単元の導入において、学習課題を設定し、その課題を追究するための視点を明確にすることにより、追究の見通しをもたせて単元の学習課題を考察することができるようになる考えた。

課題を追究していく過程で、「政治面」「経済面」「外交面」などのように視点を明確に示すことで、生徒が視点を意識して学習できるようにする。各単位時間で視点を意識しながら学習することで、多面的に考察できるようにする。「国内社会の様子」を視点の中に位置付けることにより、政府と国民という複数の立場から考察し、多角的に思考が深まるようにする。単元を通して、視点を明確にした学習活動を行うことによって、生徒が単元の見通しをもって学習できるようにする。

手立て2では手立て1で追究した視点を基に関連付けて考察できるように、XチャートやYチャートを活用する。追究する過程で学習した一単位時間のまとめや重要語句をXチャートやYチャートに整理し、そのチャートを基に自分の意見を考えることによって、単元の課題について多面的・多角的に考察できると考えた。使用するチャートは与える視点の数によって異なるが、単元の学習内容をチャートに再構成する過程で思考が促されると考えた。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 追究する視点を明確にすることで、学習内容を整理することができた。単元のまとめの際に視点が明確に位置付けてあることで、生徒が多面的・多角的に考察する上で有効であった。
- 追究する視点を明確にし、振り返りシートに視点を書く欄を設けることで、生徒の意識が高まり、どの視点の学習なのか生徒の学習への関心意欲を高める効果があった。
- 前単元と共通して「外交」という視点から追究活動を行った結果、幕末～明治期の海外の情勢の変化を捉えることができた生徒が増えた。
- 思考ツールを用いることでほとんどの生徒が複数の視点を関連付けて考察することができた。自分の考えを表現することが苦手な生徒も自分の考えを表現することができていたことから、思考ツールの活用は、多面的・多角的な考察に有効であると考えた。

2 課題

- 本単元では「外交」以外は前単元の学習で設定した視点とは異なる視点を用了が、中世や近世といった時代ごとの大きなまとまりで同じ視点をを用いることで、生徒が時代を大きく捉えることができると感じた。
- 振り返りシートに各単位時間のまとめを記入し、それを基に単元のまとめの考察活動を行った。ワークシートをポートフォリオ形式にしたが、書く分量が多くなってしまった。書かせる活動の精選が必要だと感じた。
- 今回は思考ツールを単元のまとめの際に使用したが、導入や追究の過程で活用したり、ほかの単元においても思考ツールを活用したりすれば、より生徒の思考を深められると感じた。
- 多角的に考察するために「国内社会の様子」という視点を国民視点での意見を期待して設定したが、「国民の立場」のように立場を明確にして視点を設定することで、より多角的に思考が深まると考える。

実践例

1 単元名 「明治維新」 (第2学年・2学期)

2 本単元について

本単元は「C(1)近代の日本と世界 (イ) 明治維新と近代国家の形成」に関わる項目である。

単元の導入において、明治政府の様々な政策の結果、議会在開設されアジアで初の近代憲法が成立したことを扱い、「どうして明治政府は短期間で近代国家の建設を目指したのか」という課題を設定し、単元の見通しをもたせたい。その後政府による様々な政策や国内におけるその政策の影響、当時の国際状況などと関連付けながら、明治政府が近代化を目指した理由について考察・追究していく。以上のような考えから以下のような単元計画を構想し実践した。

目標	課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解する。(知識及び技能) イ 工業化の進展と政治や社会の変化、明治政府の諸改革の目的、議会政治や外交の展開、近代化がもたらした文化への影響、経済の変化の政治への影響に着目して、事象を相互に関連付けるなどして、多面的・多角的に表現する。(思考力・判断力・表現力等) ウ 明治維新の経緯や改革の内容、人々の生活の変化に対し見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を主体的に追究しようとする。(学びに向かう力、人間性等)	
評価規準	(1) 明治維新によって近代国家の基礎が整えられ、人々の生活が大きく変化したことを理解している。 (2) 工業化の進展と政治や社会の変化、明治政府の諸改革の目的、議会政治や外交の展開、近代化がもたらした文化への影響、経済の変化の政治への影響に着目して、事象を相互に関連付けるなどして、多面的・多角的に表現している。(思考力・判断力・表現力等) (3) 明治維新の経緯や改革の内容、人々の生活の変化に対して見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究している。	
過程	時間	主な学習活動
つかむ	第1時	・新政府の方針や諸改革の内容を調べ、中央集権国家の体制が確立していったことを理解する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">【単元の学習課題】 どうして明治政府は短期間で近代国家の建設を目指したのか</div>
	第2時	・新政府が行った学制・兵制・税制の改革の具体的な内容を理解し、その影響について考える。
追究する	第3時	・文明開化などによって、欧米文化が流入したことによって、人々の生活への影響について考える。
	第4時	・岩倉使節団の目的と帰国後の近代化への影響、明治初期の外交政策について考える。
	第5時	・領土の確定について、近代的な国際関係の下で新政府が行った外交政策を理解する。
	第6時	・自由民権運動が始まった経緯や改革への不満から士族の反乱が起きた過程を理解する。
	第7時	・政府が主導した憲法制定の過程を調べ、憲法の特徴を理解する。
まとめる	第8時	・既習事項を基に、単元の課題について考える。

学習内容をチャートに記入していく際に、学習課題に迫るために必要な情報を取捨選択しなければならないため、生徒が思考を働かせている姿が見て取れた。チャートに記入する際の基となる各単位時間のまとめは、全体として同じ内容を記入しているため、クラス全員の生徒が同じ内容を基に考察することができた。

記入したチャートを基に、学習課題について考察する活動を行った。チャートには単元を通して意識してきた視点ごとに学習内容が整理してあるため、チャートを活用することにより、思考は多面的・多角的に深まっていく。ほとんどの生徒が自分の考えを複数の視点を関連付けて考察することができていた。普段自分の考えを表現することが苦手な生徒も自分の考えを表現することができていた。

チャートを活用することで生徒の思考は多面的になったが、政府の視点からの考察に偏ってしまい、国民の視点からの意見に気付く生徒が少なかった。机間巡視しながら「国民の立場からも考えてみよう」と声かけすることで、多角的な考察に至る生徒が増えた。

5 考察

手立て1については追究する視点を明確に位置付けることによって二つの利点があった。

一つ目は各単位時間の学習の際に視点を提示することにより、この時間で何を学ぶのか生徒が見通しをもって授業に臨むことができたということである。生徒が一単位時間に見通しをもって臨むことができるようになり、教師の発問に対し、積極的に意見発表やクラスの中で意見交換がなされるようになった。

二つ目は前単元と共通した視点を設定することにより、前単元との比較が容易になったということである。教師の側は歴史の流れについて、政治史や外交史、文化史といったように分野別に把握できているが、学習内容を分野別に整理することが苦手な生徒が多いため、前の時代との変化を捉え、その原因を考察する活動を取り入れることがなかなかできなかった。視点を明確化することにより、前単元との変化について考察することが容易になり、その変化から考察することができる生徒が増え、生徒の思考がより深まっているのを感じた。視点は単元ごとに設定するのではなく、古代や中世といった大きなまとまりで共通の視点をを用いて追究していくことにより、時代を大観することにつながると感じた。

手立て2については、学習内容をチャートに記入する活動を通して、生徒の思考が整理・整頓され、多面的・多角的に考察することを促す効果が見て取れた。単元の導入時には「条約改正のために近代化した」という外交面のみの一面的な見方だったものが、「国内の産業や軍備を整備することで外国に負けない国づくりをするため」「欧米列強のアジアへの植民地支配が進む中、独立を守るため」と思考の深まりを見て取ることができた。

以上のことから、歴史的分野において視点を明確にし、チャートを活用し単元の学習課題について考察する活動を取り入れたことは、歴史的事象を多面的・多角的に考察することができる生徒を育成する上で有効であったと言える。

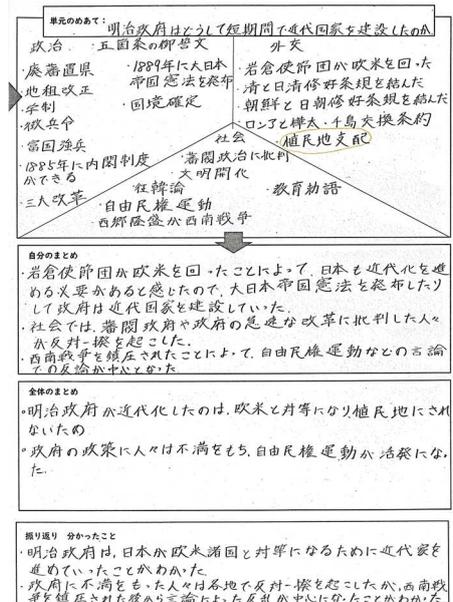


図2 Yチャートと単元のまとめ

6 資料

ワークシート

